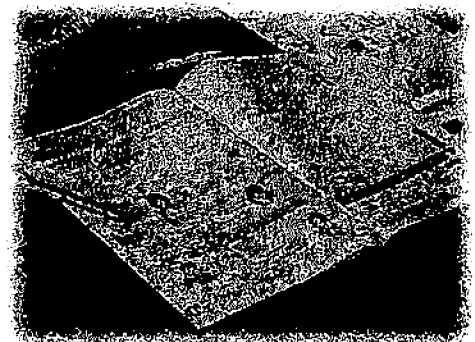
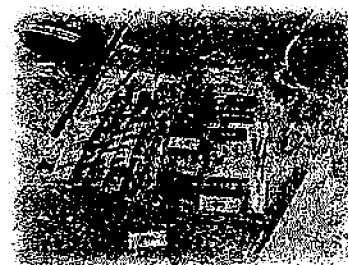
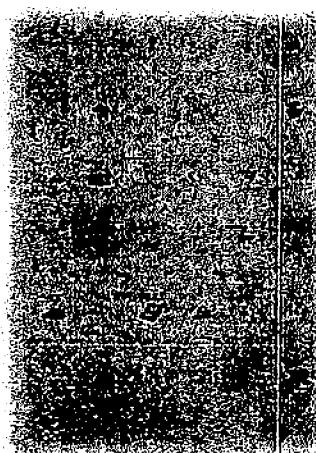


研究主題

消費者センスを身に付け、より良い消費行動を考え

工夫することのできる生徒の育成



第四部会技術・家庭科研究部

八街市立八街北中学校 林 仁美

八街南中学校 湯浅 友香里

八街中央中学校 門澤 佐智子

八街中学校 小出 清美

確かな知識と技術を身に付け、社会の変化に対応し、
生活や技術を工夫し、創造する力を育む学習指導のあり方

1 研究主題

消費者センスを身に付け、より良い消費行動を考え工夫することのできる生徒の育成

※“消費者センス”とは、「消費者庁が行う消費者教育」の中で使われている言葉である。

消費生活でのトラブルや事故（製品事故）に遭いそうになったとき、その危険を察知し、回避する力を「消費者センス」としている。

2 研究主題について

私たちの生活は、消費の上に成り立っている。衣・食・住において、物資やサービスを購入し、消費して生活を送っている。今までの購入方法は、実際に物を見て、現金での支払う方法が中心であった。しかし、消費者白書によると、2017年に「インターネット通販」の割合(26.0%)が「店舗販売」の割合(25.2%)を上回り、販売方法も変化している。また、電子マネーの所有率も増加など、支払い方法にも変化が生じてきているが、しくみをきちんと理解していなくても使用できる現状がある。

このようなインターネットの普及、キャッシュレス化の進行などの消費行動に大きな変化や、消費者被害の低年齢化がみられる社会の変化の中で、今まで以上に消費者教育における「生きる力」が必要になってきている。その「生きる力」を身に付けさせるためには、消費者トラブルや事故に遭いそうになった時に、その危険を察知し回避する力“消費者センス”を学ぶことが重要であると考えている。

平成29年度告示の中学校学習指導要領「C 消費生活・環境」では、(1)「金銭の管理と購入」、(2)「消費者の権利と責任」(3)「消費生活・環境についての課題と実践」の3項目で構成されている。

ここでは、課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて考え、工夫する活動を通して、消費生活・環境に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、身近な消費生活と環境についての課題を解決する力を養い、身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

本研究では消費者センスの基礎を学ぶ事に視点をあて、(1)「金銭の管理と購入」、(2)「消費者の権利と責任」の研究をおこなった。現代の社会において、消費者被害の回避や適切な対応が一層重視されることから、売買契約の仕組みと関連させて消費者被害について取り扱っていく。また、消費生活センターなどの各種相談機関と連携し、中学生の身近な消費行動と関連を図った事例を取り上げていきたい。

さらに、持続可能な社会の構築に向けて、消費者教育の推進に関する法律（消費者教育推進法）の定義に基づき、自覚をもって消費者センスを身に付けるための基礎を培っていくことができるようにさせたいと考え、本主題を設定した。

(1) 社会的背景

近年、多くの人が当たり前のようにインターネットを利用するようになった。それを利用し、自由に物資やサービスの購入ができるようになった。また、スマートフォンも普及し、どこにいてもインターネットの利用ができるようになっている。中学生でも、スマートフォン（インターネット）を利用して物資

だけでなく、音楽やLINEのスタンプも購入している。また、ゲームなどで課金をしたり、インターネット上での物の販売などを行ったりしていることもある。保護者の目に見えないところで複雑な問題に巻き込まれやすく、被害が拡大しやすい現状があるため、購入の方法や、支払いの方法、トラブルに巻き込まれた際の対応について身に付ける必要があると考えた。

(2) 生徒・地域の実態

八街市は、千葉県北部のほぼ中央に位置し、東京から50km圏内にあり、京葉工業地帯からは20km、成田国際空港から10kmの位置にある。東は山武市、西は佐倉市、南は東金市・千葉市、北は酒々井町・富里市にそれぞれ接している。市の中央部は市街地を形成し、周囲には平坦な畑作地帯が広がっているほか、南西部及び北部に水田地帯が点在している。

基幹産業である農業は、にんじん、さといも、だいこん、落花生、すいかなど、野菜が中心となっている都市近郊型農業である。

八街市では、平成9年度より全国に先駆け「幼小中高連携」を推進し、「学校改善」「継続指導」「家庭や地域との連携」を3本柱とし、それぞれの校種のつながりを活かして「生きる力」の育成を目指している。具体的に連携六項目を定め、各学校で継続指導している。

この六項目を達成するために、幼小中高連携を図りながら授業や行事に取り組んでいる。

みんなで大切にしよう（八街市幼小中高連携六項目）

1. 話を静かに聞くことができる
2. 指示を受け止め行動ができる
3. あいさつができる
4. 正しい言葉づかいができる
5. 清掃ができる
6. 自学ができる（自分のことは自分でできる）

八街市内4校（八街中・八街中央中・八街北中・八街南中）で、共通のアンケートを実施した。

生徒の半数は小学生の頃から携帯電話・スマートフォンを所持している。中学生の携帯電話・スマートフォンの所持率は8割ほどで、ほとんどの生徒が所持していることがわかった（図1）。主な利用目的は保護者や友だちとの連絡、情報の検索（YouTube等）のための利用だった（図2）。

自分の小遣い等を使用し、購入しているのは、洋服や靴、ゲーム、音楽等で、支払い方法としては、現金の他に、プリペイドカードやオンライン決済で行っている生徒も少なくなかった。特にゲームへの課金をしているという生徒の利用額は平均1,000円程度であったが、中には5万円も課金したという生徒もいた。知っている支払い方法についての項目では、実際に自分たちが利用している支払い方法以外については理解が低いことがわかった。（図3）

実際にトラブルに巻き込まれた生徒はごく少数（2%程度）であった。トラブルに巻き込まれてしまったときに助けを求める相手としては、親や友人、先生、と考えている。

図1 あなたは携帯電話もっていますか？

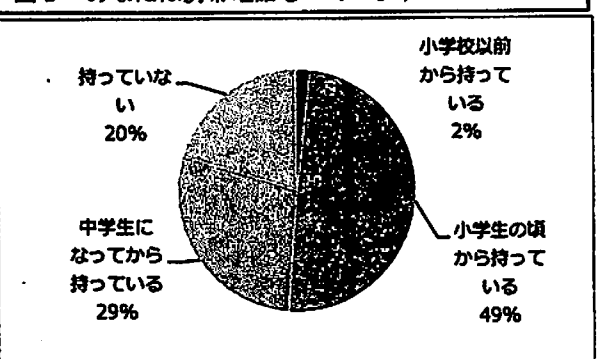
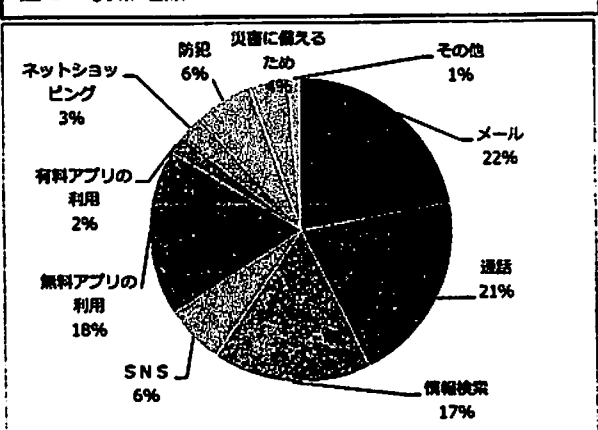


図2 携帯電話・スマートフォンの利用目的について



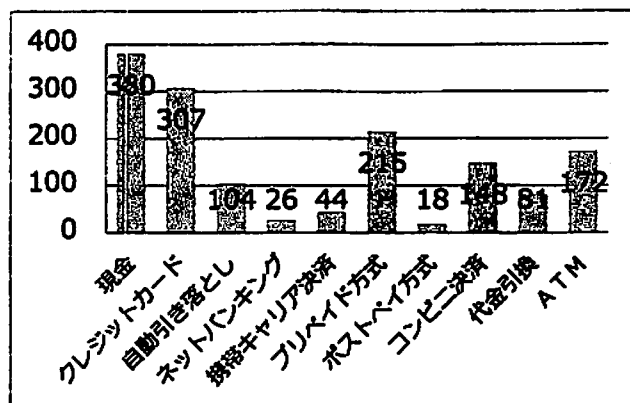
消費生活センターなどの公共機関などを知り、一人ひとりがどのように対応すべきなのかを知識として知っておかなければならない。

アンケート結果によると、中学生であっても、自由にインターネットを利用することのできる環境にあり、インターネットによる通信販売やゲームのダウンロード・課金等も経験がある。

個人用のスマートフォンや、タブレットの使用が増えているため、保護者の目に触れないところで複雑な問題に巻き込まれやすくなっている。また、誰に相談していいのか、どのように解決したらいいのかも分からないので、そのまま相手の言うとおりにしてしまうことが多く、被害が拡大している現状がある。

また、支払い方法については、名称として知っているものの、内容を記述させてみると、正しく理解している生徒は、少ないことがわかった。そこで、消費者として生活を送る上で、正しい知識を身につけ「何が必要」で「何ができるのか」を理解させるために、消費生活センター等の公共機関との連携を図り“消費者センスを身に付ける”ための授業を行うこととした。

図3 知っている支払い方法 (人)



3 研究のねらい

消費者センスを身に付けるための基礎を培い、よりよい消費行動をとるための判断力・実践力を育成する。

4 研究仮説

(1) 消費生活についての指導方法を工夫することで、支払い方法や消費生活についての注意点について考えることができるであろう。

普段の生活の中で、消費活動をしているが、支払い方法の具体的なしくみや消費生活全体の流れについて、正しい知識をもっている生徒は少ない。そこでシミュレーションゲームや自作映像を取り入れる事により、具体的に注意していくことについて自分自身で考えることができるであろうと考えた。

(2) 消費者トラブルの概要を知る事で、自分の生活と結びつけ、自覚ある消費行動をとることができるであろう。

消費者トラブルが低年齢化していること、また実際にトラブルに遭った生徒もいることを踏まえ、外部機関との連携をしながら具体的に消費者トラブルの概要を学習することで、自分自身の生活を振り返り、また、これからの生活で気をつけることについての基礎的知識を身に付けることができるであろうと考えた。

5 年間指導計画

	技術分野	家庭分野
1 学年	<p>A 材料と加工の技術 本立てを作製しよう【27時間】</p> <p>D 情報の技術 情報を活用し、生活に生かそう 【8時間】</p>	<p>家庭分野ガイダンス 【1時間】</p> <p>A 家族・家庭生活 【2時間】 わたしたちと家族</p> <p>B 衣食住の生活 【27時間】 食生活 健康と食生活 食品の選択と保存 調理をしよう 地域の食材と食文化</p> <p>C 消費生活・環境 【5時間】 家庭生活と消費 商品の選択と購入 消費者トラブル</p>
2 学年	<p>C エネルギー変換の技術 電気を利用したものを製作しよう 【25時間】</p> <p>B 生物育成の技術 作物を栽培して生活に生かそう 【10時間】</p>	<p>B 衣食住の生活 【30時間】 住生活（10時間） 住まいのはたらき 健康で安全な住まい 住まいと地域 衣生活（20時間） 日常着の活用 日常着の手入れ 布を用いた物の製作 持続可能な社会をつくる</p> <p>C 消費生活・環境 【5時間】 環境に配慮した消費生活</p>
3学 年	<p>D 情報の技術 制御と計測 【10時間】</p> <p>アプリケーションソフトの使用 【8時間】</p>	<p>A 家族・家庭生活 【17時間】 家庭と地域 幼児の生活と遊び 幼児とのふれ合い これからのわたしと家族</p>

6 授業実践

(1) 題材名 身近な消費生活と環境

(2) 題材の目標

- ・生活を送るために必要な物資やサービスを商品として購入していることを知り、消費の概念を知る。
- ・様々な販売方法と支払い方法が社会に存在することを知り、それぞれのメリット・デメリットに気づく。
- ・消費者と事業者との関係を知り、消費者を支える法律や機関が設けられていることを知る。クーリング・オフ制度の使い方がわかる。

(3) 小学校との系統性（新学習指導要領より）

小学校

物や金銭の使い方と買い物

ア（ア） 買い物の仕組みや消費者の役割、
物や金銭の大切さ・計画的な使
い方

（イ） 身近な物の選び方、買い方、
情報の収集・整理

イ 身近な物の選び方、買い方の工夫

(2) 環境に配慮した生活

ア 身近な環境との関わり、物の使い方

イ 環境に配慮した物の使い方の工夫

中学校

(1) 金銭の管理と購入

ア（ア） 購入方法や支払い方法の特
徴、計画的な金銭の管理

（イ） 売買契約の仕組み、消費者
被害、物資・サービスの選
択に必要な情報の収集・整
理

イ 情報を活用した物資・サービス
の購入の工夫

(2) 消費者の権利と責任

ア 消費者の基本的な権利と責任、
消費生活が環境や社会に及ぼす
影響

イ 自立した消費者としての消費行
動の工夫

(3) 消費生活・環境についての課題と 実践

ア 環境に配慮した消費生活につい
ての課題と計画、実践、評価

中学校では小学校の学習を発展させ学習する。新学習指導要領では、自立した消費者を育成するために、計画的な金銭管理、消費者被害への対応に関する内容が新設されている。売買契約の仕組みについては三者間契約についての具体的な内容も加わるなど、消費生活について、ライフスタイルの確立の基礎となる内容が組み込まれている。

(4) 育成を目指す資質・能力

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう態度
資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> * 金銭の管理と購入についての基礎的な理解と技能 * 消費者の権利と責任についての基礎的な理解 	<ul style="list-style-type: none"> * 家族・家庭や地域における生活の中から消費生活・環境について問題を見出し、課題を持って考え解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> * 身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度

(5) 指導と評価の計画

時数	学習活動	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう態度
1	1 家庭生活と消費 ① 消費生活のしくみ			<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の消費生活について関心を持ち、消費生活の在り方を自分の生活に結びつけ、実践しようとしている。
2	2 商品の選択と購入 ① 商品購入のプロセス ② 生活情報の活用 ③ 購入方法と支払い方法 3 よりよい消費生活のために ① 契約と消費生活トラブル ② 消費者を支えるしくみ ③ 消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> ・販売方法の特徴について、具体的な場面を想定し、理解している。 ・必要な情報を収集・整理することができる。 ・消費者の基本的な権利と責任を具体的な生活の場面と併せて、理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物資・サービスの選択、購入および活用について、考え工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者トラブルに関心を持ち、防止方法を積極的に実践しようとしている。

※実践例は太枠の部分です。

実践1

- (1) 小題材名 わたしたちが利用できる支払い方法
- (2) 目標
 - ・支払い方法のルールに従って、意欲的に取り組める。【学びに向かう態度】
 - ・支払い方法によって、メリット・デメリットが理解できる。【知識・技能】
- (3) 展開

時配	学習内容と活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5	1 買い物をする際の支払い方法を確認する。	・自分たちが普段使っている支払い方法を理解させる。	
私たちが利用できる支払い方法には、どのようなものがあるのか？			
10	2 支払い方法の種類を確認する。 ・現金（即時払い） ・クレジットカード（後払い） ・プリペイドカード（前払い）	・自分の使っている支払い方法以外にも注目させる。 ・クレジットカードには、支払い方に数種類あることに注目させる。 ・プリペイドカードは、事前に購入し、使い捨てにするものと、チャージして繰り返し使用するものがある。	プリント
20	3 シミュレーションゲームをしよう。 ・ゲームを通じ、様々な支払い方法を知る。 ・班ごとにゲームセットを用意する。 ※資料編 P3 〈ゲーム上のルール〉 ・1人30万円ずつ配布する。 ・支払い方カードをひき、支払い方法を決める。 *現金→物品購入の際、即時払いをする。ローン組める人と、組めない人という。 *クレジット 2回払い→青いマスに必ず止まり、手持ちの支払いの半額を払う。 リボ払い→青いマスに必ず止まり、1万円だけ払う。 *プリペイド→10万円だけチャージする。そのチャージ分から支払いをする。ただし、10万円を超える購入の際は、現金払い。チャージ金額が無くなったら、1回休みで	・正しく支払うことができているか確認しながらゲームを行うことができるようにする。 ・ゲームであることを確認し、現実生活と混同させないようにする。 ○支払い方法のルールに従って、意欲的に取り組んでいる。 【学びに向かう態度】 Cへの手だて ・支払い方法のカードを再度確認させる。 A：自ら進んでゲームを進めることができる。	〈ゲームセット〉 ・ゲーム盤 ・お金 ・支払い方カード ・支払いカード ・物品カード ・コマ ・さいころ

5	<p>チャージをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームが終わったら、支払い方法のメリット・デメリットについて話し合いをする。 	<p>○それぞれ支払い方法にメリット、デメリットがあることを理解できる。</p> <p style="text-align: right;">【知識・技能】</p> <p>Cへの手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班での話し合いの中で、ゲームの内容を振り返らせてまとめさせる。 <p>A：ゲームの結果から、自分で具体的にメリット・デメリットがわかる。</p>	
10	<p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班での考えを発表する。 ・支払い方法によってどのような違いがあるかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班での考えを発表する。 	

*シミュレーションゲームについては、資料編にて紹介します。

実践2

(1) 小題材名 支払い方法により、値段はなぜ変わるのか

(2) 目標

- ・支払い方法によって、物の値段が変わることをわかる。【知識・技能】
- ・物の購入の際に、どのような方法がよいかをわかる。【思考力・判断力・表現力】

(3) 展開

時配	学習内容と活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5	<p>1・前時の確認</p> <p>支払い方法によって、どのような違いがあるのかを確認する。</p>		
<p>物の値段は、支払い方法によってなぜ変わるのだろうか？</p>			
20	<p>2 支払い方法の整理をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の『よい』と思った方法を、順番にプリントに記入していく。 ・班で話し合いをし、班の中での順位を決めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のプリントを確認させる。 ・支払い方法によって、支払い総額に違いがあることに注目させる。 	プリント
20	<p>3 同じ物の購入でも、支払い方法によって支払う金額がなぜ変わるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利息、手数料、利益などで変わることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利息や手数料が、元の金額にプラスされていき、総額に違いが出てくることによって、支払額に違いがあることを理解させる。 <p>○支払い方法によって、物の値段が変わることがわかる。【知識・技能】</p>	

5	<p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの生活で、支払い方法を決める時、自分が気をつけることを考える。 	<p>Cへの手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元の金額と、手数料等が含まれた金額を見比べさせる。 <p>A：なぜ違いが出てきたのかに気づき、説明ができる。</p> <p>○物の購入の際、どのような方法がよいかわかる。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>Cへの手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの支払い方法や支払い金額の差を比べ、自分にとってよい方法を見つけさせる。 <p>A：支払い金額の差に気がつき、よりよい支払い方法を選択できる。</p>	
---	---	---	--

〈生徒の感想〉

・自分は、現金が不足したら、買わない方法が良かったと思いました。理由は、それほど支払い方が難しいわけではないし、借金が増えないところが良いと思いました。借金をしすぎてしまうと、返せなくなって困ってしまうので、大人になっても、一括で支払えるようにしたいです。

・いろいろな支払い方法があるけれど、それぞれの支払い方に合わせて、上手く使い分けができるようにしたいです。

・きちんと支払い方法を理解していないと、余分にお金を払ってしまったたり、トラブルに巻き込まれたりしてしまうから、気をつけたい。

・よくわからない払いはしない。買いすぎたりして、借金をためないようにする。自分に合った払い方をする。お金は計画的に使うようにする。いらぬものは買わない。

・支払い方によって、手元に残るお金が結構違うことがわかった。物を買うときには、一番損をしない方法を見つけ、買い物をしたいです。

・今はまだ、現金やプリペイドカードを使って、小さい買い物しかしないので、ローンを組むことはありませんが、大人になって、お金が少しになってしまったり、大きな買い物をするときには、分割などを使って支払ったりしたいし、なるべく借金をつくらないようにしたい。自分で毎月いくら使ったかを書いて、計画的にお金を使っていきたいです。

実践3

(1) 題材名 消費者を支えるしくみを知ろう

(2) 目標 ・トラブルになる原因を見つけることができる。【学びに向かう態度】【知識・技能】
 ・消費者を支える法律・制度・機関の必要性が理解できる。【知識・技能】

(3) 展開

時配	学習内容と活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5	1 消費生活センターを知っているか。		
	契約とは何かを知り，トラブルに巻き込まれた時の対応を知ろう。		
10	2 消費者とは，誰のことを指すのか。 ・自分 ・買う人 3 契約とは何か。 ・契約＝約束 ・契約の成立はいつか。 「ください」「わかりました」というやり取りがあった時点で契約になる。	・何かを購入・消費している時点で消費者になることを確認する。 ・契約には，法的拘束力があることを理解させる。 ・口約束でも契約は成立してしまう。	
30	4 身近なトラブル ・トラブルに巻き込まれやすいかチェックシートを使って確認する。 ・新聞広告から，気をつけなければならないことを見つける。 ・個人で広告を見た後，班での話し合いをする。 ・班で話し合ったことを発表する。 ・架空請求について知る。	・難しい言葉も使われているので，個々に対応していく。 ・個人で広告を見た後，班での話し合いをする。 ○トラブルになる原因を見つけることができる。 【学びに向かう態度】【知識・技能】 Cへの手だて ・班での話し合いの中で，情報がはっきりしない箇所に注目させる。 A：怪しい箇所に気がつき，話し合いで積極的に意見が言える。 ・八街市では，はがきによる架空請求が増えていることにも触れ，自分の近くでも危険が起こっていることを意識させる。	プリント （国民生活センター資料）

5	<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約について確認する。 ・トラブルに巻き込まれた際には、消費生活センターに相談をする。 	<p>○消費生活センターの存在を知り、消費者を支える法律・制度・機関の必要性が理解できる。【知識・技能】</p> <p>Cへの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活センターの方の話に注目させる。 <p>A：困ったことがあったら、公共機関に相談することができ、私たちを守る法律等があることが理解できる。</p>	
---	--	--	--

実践4

(1) 題材名 契約と消費生活のトラブル

(2) 目標 ・身近なトラブルに関心を持ち、トラブルになる原因を見つけることができる。

【学びに向かう態度】【知識・技能】

・消費生活のトラブルを理解し、その予防方法、対処方法について知る。

【思考力・判断力・表現力】【知識・技能】

(3) 展開

時配	学習内容と活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5	<p>1 トラブルに巻き込まれた際には、消費生活センターに相談、クーリング・オフ制度などがあり、自分たちを守ってくれる機関があることを確認する。</p>	<p>・前時、消費生活センターの方に話をしてもらったことを再確認させる。</p>	
<p>どのようにしたら、消費トラブルに巻き込まれないだろう？</p>			
10	<p>2 映像を見る</p> <p>*映像 八街北中職員に協力してもらい、マルチ商法を元にした内容のものにしてあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の確認 ・被害者の発言等に注目させる ・加害者の話し方に注目させる 	
20	<p>3 検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習班（4～5人）で話し合いをする。 ・映像から、どのような部分が巻き込まれる原因になっているのかを考える。 ・巻き込まれないために、どのように対応したらよかったのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習班（4～5人）で話し合いをする。 ・プリントの、「怪しい」と思う部分に線を引かせていく。 ・どのような部分がいけないと感じたのか、理由を添えて考えさせる。 <p>○トラブルの原因に気づくことができる。【学びに向かう態度】【知識・技能】</p>	プリント

<p>10</p>	<p>4 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの班で話し合ったことを発表し、共有していく。 	<p>Cへの手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班員の意見を参考に、自分の意見を持たせる。 <p>A：トラブルの原因に気づき、積極的に話し合いに参加できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の約束を守らせる。 <p>〈話し方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指名されたら「はい」と返事をして立つ。 ・みんなに聞こえるような声の大きさと発表する。 ・みんなに自分の話がわかるように発表する。 <p>そのために</p> <p>①順序よく話す。</p> <p>②なぜそう思ったのか。理由を話す。</p> <p>③みんなの反応を確かめながら話す。</p> <p>〈聴き方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者に注目する。 ・最後まで話を聴く。(話の途中で発音をしない) ・発音の内容を理解できるように集中して聴く。 ・自分の考えと比べながら聴く。 ・自分の考えと同じなら、うなづきなどの意思表示をする。 ・自分で気がつかなかったことにも注目させる。 	
<p>5</p>	<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラブルに巻き込まれた際にはどのような対応をとったらいいのかを再確認する。 ・クーリング・オフの確認。 	<p>○消費生活のトラブルを理解し、その予防方法、対処方法について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信販売では、クーリング・オフ制度は使えない事にも注目させる。 <p>→ジャドマ・マークの確認。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】【知識・技能】</p> <p>Cへの手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習したプリントを確認させる <p>A：消費生活センター等に相談することや、クーリング・オフについて理解している。</p>	

〈生徒の感想〉

私はだまされやすいタイプなのか、だまされにくいタイプなのか、自分ではあまりわからないけれど、もしだまされにくいタイプだったとしても、油断だけはしないようにしようと思いました。私たち一人ひとりが消費者なので、何か欲しいものがあっても、先のことも考えて買うようにしようと思いました。

まず最初に思ったのは、すごく怖いということです。もし、中学校の時の同級生だったら、すごい身近な人まで、危険はさまっていると感じました。将来このようなことになったら、学習したことを活かし、消費生活センターに相談しようと思いました。そして、自分自身も気をつけて、断るときは、ことわれるよう頑張ろうと思いました。

私がこの学習をする前までは、そのようなことに巻き込まれた時には、その場で「大丈夫ですよ」と軽く言えば断れると思っていましたが、話の上手な人は、世の中にたくさんいるし、断りづらい時もありますが、はっきり断ろうと学ぶことができました。巻き込まれている人がいたら、消費生活センターのことを教えてあげたいと思います。

クーリング・オフや支払い方法など、今まで全く知りもせずに生きていた自分がそのまま大人になっていたら、だまし取られていたかもしれない。もしかしたら、自分もそそのかされて、だましていたかもしれない。そう考えると、知ることができてよかった。

将来、トラブルに巻き込まれても、正しく対応するための訓練は必要だと思いました。本当にこういうことに巻き込まれそうになったら、今回の学習で学んだことを生かし、『はっきり断る』ということに気をつけて生活していこうと思いました。

契約やクーリング・オフなどの、これからの生活で絶対に役立つことが知れてよかった。消費生活センターの人たちの話も、すごくためになったし、今回の授業もためになった。友だちとの関係が崩れるようなことは、絶対にしない。

トラブルに巻き込まれないように、はっきりと断ることが大事だと思いました。今回動画を見て、よりその大切さがわかりました。いつ、どこでトラブルに遭うかわからないので、疑う気持ちを持って、安全でいられるようにします。

本当にありそうな話で怖い！

私がBさんの立場だったら、セミナーに行ってしまうかもしれない。もし、セミナーに行くと、契約を結んでしまったら、ちゃんと冷静になって、クーリング・オフ制度を思い出せるようにする。

きちんと考えて生活しないと、いつか大きな失敗にもつながることがわかった。人を見た目で判断してはいけない理由がわかった。大人になったら、疑うということも大切だとわかった。

5 成果と課題

〈仮説1 に対しての成果〉

- ・支払い方によって、メリット・デメリットがあることに気がつくことができた。
- ・現金以外にも、支払い方法があることを理解できた。
- ・ゲームで使った支払い方については、生徒が理解しやすくなっている。

	事前	事後
現金	68.0%	96.9%
クレジット	11.7%	62.2%
プリペイド	11.7%	84.7%
デビット	0%	2.0%

〈仮説2 に対しての成果〉

- ・自分自身の生活の全てが、消費行動であることに気がつくことができた。
- ・物の購入は、店と自分との契約で成り立っていることがわかった。
- ・クーリング・オフ制度について知ることができた。
- ・トラブルに巻き込まれた際、消費生活センター等に相談することができることがわかった。

生徒の回答	事前	事後
「トラブルに巻き込まれた際、どのように対応したらいいか」	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない ・警察に言う ・親に言う ・友だちに相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者センターに電話をして、相談にのってもらう ・市役所に行く ・クーリング・オフ制度を使う ・自分だけで解決しようとしな い

- ・トラブルを防ぐためには、勇気を持って断ることも大切だと理解した。

〈仮説1 と2 に対しての課題〉

- 知っている人(有名な人)が相手(宣伝等)ならば、信じてしまってもいいと考えてしまう生徒がいた。
- はっきり断れないかもしれないという思いを持っている生徒がいる。
- 自分たちの使える支払い方法(現金・プリペイド式)についてはわかるが、使ったことのない方法については、十分に理解できていない生徒も見られた。(例:クレジットカード→かざすだけで何でも買えるなど)
- 中学生としての現在の購入だけでなく、将来を見据えてイメージをふくらませる必要はあると感じる。

《まとめ》

講義形式だけでは、実感を伴った理解をすることが難しい生徒が多い。4部会ではゲームを作成したり、自作映像を作るなど指導方法を工夫した。この工夫により、生徒の興味・関心を高め、支払い方法や消費生活についての注意点について、考えることができるようになってきている。また、以前よりは消費についての知識が増えたが、実際に消費者センスの向上につながっているかはすぐに見えてくるものではないので、今後も定期的な指導が必要である。そのために、1年生での学習で終わらずに、2・3年生の学習の中でも、いろいろな題材の中で消費者教育についての内容を意図的に組み入れて指導していきたい。

より良い消費行動を考え、自分の生活を工夫することができる生徒を育成できるように、今後も研究を進めていきたい。

平成30年8月28日

第68次 印旛地区教育研究集会
技術・家庭科分野

研究主題

よりよい生活をめざす意欲と確かな実践力の育成

～家庭と学校を行き来して、課題を解決する指導過程の工夫～



第三部会 技術・家庭科研究部

印西市立小倉台小学校 笠野 圭子

印西市立小林北小学校 角田みどり

印西市立 木下小学校 林 真理

1. 研究主題

「よりよい生活をめざす意欲と確かな実践力の育成

—家庭と学校を行き来して、課題を解決する指導過程の工夫—

2. 主題設定の理由

＜新学習指導要領から＞

平成32年度完全実施の新学習指導要領改訂の家庭科の3つの目標の(2)に、「日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。」とある。中でも「課題を解決する力」を育てる手段として、生活の中から問題を見出しての「課題解決型の学習」が重要であることが明示されている。

家族の一員としてよりよい生活をめざす意欲と、それを実現するための実践力は家庭科の学習を進めていく上での車の両輪である。本研究では、家庭生活と学校での家庭科の学習を切り離して考えるのではなく、家庭での問題点をもとに課題を見つけ、解決するために学んだことを生かして、家庭での課題を解決し、実践力として身につけさせることをめざして、研究主題を設定した。

＜児童の様子から＞

本提案の3校のある印西市は、北総鉄道の延伸と千葉ニュータウン地区の拡大とともに発展してきた市である。東洋経済新報社による「全都市住みよさランキング」で、2012年から6年連続1位となっており、新住民が人口の大多数を占め、新しい住宅が立ち並んでいる。

木下小学校は、旧地区と新興住宅街とが混在する地域にある中規模校である。学習につまづきを感じる児童が多く見られ、学習への意欲を高めていくことが課題となる。家庭環境が複雑な子どももおり、学習のみならず生活全般で配慮が必要なことが多い。家庭での活動を全員が実施することは難しい。

小林北小学校は成田線沿線の住宅街にあり、全学年単学級の小規模校である。共働きの家庭が多く、ほとんどの家庭が核家族である。学力面でも生活面でも平均的な子どもたちで、学習への取り組みはまじめで課題にも熱心に取り組むが、自分で考えて課題を発見したり話し合いによって考えを深めたりする活動には消極的である。

小倉台小学校は、市の人口の多数を占める北総線沿線の駅近くの大規模校である。教育に対して関心の高い家庭が多く、子供たちは塾や習い事に追われている。学力が高く素直ではあるが、家事を手伝ったり自立した生活習慣を送ったりしているとは言い難い。

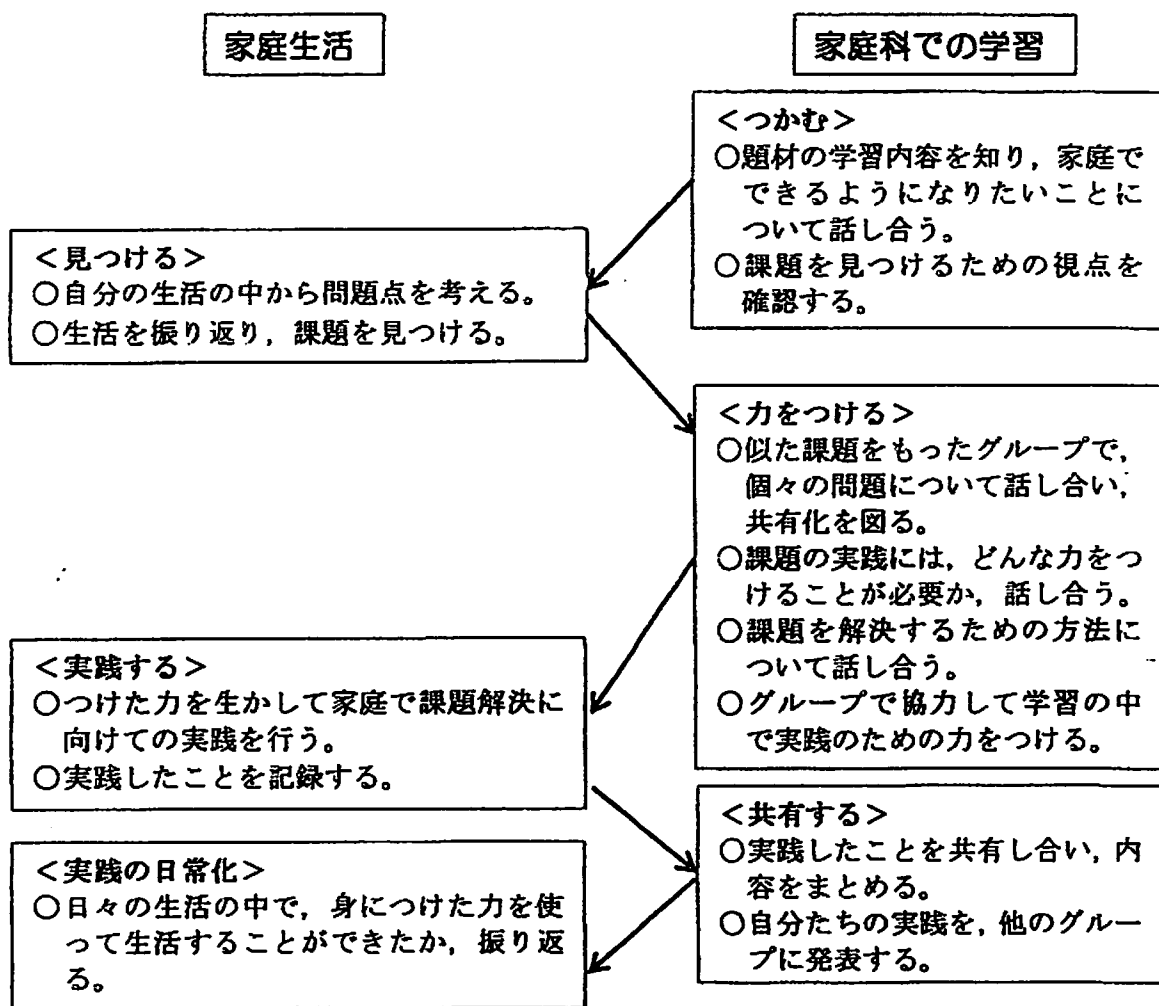
本研究に取り組む3校は、様々な実態を含んでいる。そこで、3校それぞれの実践を通して本研究主題を検証し、「課題解決型の学習」を通して意欲と実践力を育てていきたい。

3. 研究の内容

<研究仮説>

「家庭生活」、「家庭科での学習」を活動の場として効果的に行き来する指導過程を組み、課題解決的な学習を進めれば、よりよい生活をめざす意欲と確かな実践力を育てることができるだろう。

☆「家庭生活」「家庭科での学習」を活動の場として効果的に行き来する指導過程



4. 研究の実践

<実践1 / 印西市立木下小学校>

(1) 題材名「寒い季節を快適に」

(2) 題材の目標

○寒い季節の生活の仕方に関心を持ち、冬の生活を快適に過ごそうとしている。

【関心・意欲・態度】

○寒い季節の生活について課題を見つけ、その解決をめざして考えたり、自分なりに工夫したりしている。

【創意・工夫】

○寒い季節を過ごすための、基礎・基本となる技術を身につけている。

【技能】

○快適な冬の生活の仕方について理解している。

【知識・理解】

(3) 題材について

本題材は、新学習指導要領「B 衣食住の生活(6) 快適な住まい方 ア(ア) 住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を工夫すること。」を受けて設定した。本題材では、冬の寒さをしのぐために、今まで行ってきたことを想起させ、自ら行ってきたことを振り返ったり、新しく取り組める事柄について知ったりしながら、学校での学びを家庭でも主体的に生かせるようにしたいと考えた。

(4) 実践の記録 (5時間扱い)

活動 場所	主 な 学 習 活 動
学校	<p><つかむ></p> <p>○自分の生活や資料から寒い季節の生活に関心を持ち、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">寒い季節を快適に過ごすためにはどうしたらよいだろう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 ウェビング法を用い、班毎に「寒い季節を快適に過ごす方法」というテーマで意見を出し合う。 2 自分が取り組みたいテーマごとに小グループをつくる。 3 小グループ毎に家庭で行っていることについて交流し、家庭でインタビューしたり調べたりすることを大まかに話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・家の中であたたかい場所はどこだろう。 ・あたたかく過ごせる小物はどんなものがあるだろう。 ・外出する時はどんな服装をしているのだろう。
家庭	<p><見つける></p> <p>○自分の視点で、生活の中の問題点に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬になると、よく暖房を使う。ストーブも床暖も使っている。暖房費がかかる。 ・日光が当たらない部屋は寒い。 ・外出する時は、上着や防寒具を使っている。

<p>学校</p>	<p><力をつける> ○グループ毎に実践の計画をたてる。取り組む具体的内容とその方法を考える。</p> <p style="text-align: right;">資料①②</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>—あたたかい着方について—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あたたかく過ごすために、どのような服を着ているか。→クラスにアンケート ・衣服の色でどのくらいあたたかさが違うのか。→湯を入れた缶に、色の違う布を巻きつけ、温度変化を調べよう。 ・衣服の枚数でどのくらいあたたかさが違うのか。→実際に着て体感してみよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>—あたたかくなる食べ物について—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬によく食べる「あたたかい食べ物（飲み物）」には、どんな物があるだろう。→クラスにアンケート ・本当に体があたたかくなる食べ物について調べる。→おうちの人にインタビュー・PC ・あたたかくなる食品を使った簡単レシピを調べ、実際に作って食べてみる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>—暖房の使い方について—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番使われている暖房器具は何だろう。どんな暖房をどこで使っているのだろう。→クラスにアンケート ・効率よく部屋をあたためるよい暖房器具の使い方はあるのだろうか。→PC ・換気も大事だというけど、みんなの家では換気をしているのだろうか。→インタビュー </div> <p>※その他の課題 あたたかく寝る工夫 / 寒さに負けない小物使い / 体を動かしてあたたかく過ごそう</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>実際にやってみたらおもしろいんじゃない？ 体験する課題を増やしてみよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>冬によく食べている物でも、体を冷やしてしまうものがあるのではないか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>冬によく使う暖房器具。 使いたいだけ使ったら、エコじゃない。エネルギーを大切にしたい冬の過ごし方って……。</p> </div>
<p>家庭</p>	<p>○各グループの課題に沿って実践する。</p>
<p>学校</p>	<p><力をつける> ○グループごとの学習計画に沿って、調べたりまとめたりする。</p>
<p>家庭</p>	<p>○各グループの課題に沿って実践する。課題解決に足りない実践をする。</p>

学校	<力をつける> ○実践・調査内容したことを共有し合い，解決した内容をまとめる。 ○発表の練習をする。 資料③④
学校	<共有する> ○グループごとに実践内容を発表する。 ○友達の実践を聞き，実践してみたい事柄をカードに記入する。
家庭	<実践力の日常化> ○グループ発表から出された事柄を選択し，実践する。 ○実践した内容をスキルアップカードに記録し，おうちの人からもコメントをもらう。 資料⑤⑥

<実践2 / 印西市立小林北小学校>

(1) 題材名 「くふうしようおいしい食事」

(2) 題材の目標

○栄養のバランスを中心に，一食分の献立を考えることができる。

【創意・工夫】【知識・理解】

○身近な食品を用いて調理実習計画を立て，ゆでたりいためたりしておかずをつくること
できる。

【関心・意欲・態度】【創意・工夫】【技能】

○日常取っている食事に関心をもち，食事の役割を考えて，食事を大切にしようとしている。

【関心・意欲・態度】【創意・工夫】【知識・理解】

(3) 題材について

本題材は，新指導要領「B衣食住の生活(2)調理の基礎 イおいしく食べるために調理計画を考え，調理の仕方を工夫すること。(3)栄養を考えた食事 ア(ウ)献立を構成する要素が分かり，1食分の献立作成の方法について理解すること。イ1食分の献立について栄養のバランスを考え，工夫すること。」を受けて設定した。本題材では，これまで学習して得た知識や技能を生かして1食分の献立を考えたり，身近な食品を使っておかずをつくったり，家族と楽しく食事をする計画を立てて家庭で実践したりすることを主な活動とした。その活動を通して，栄養バランスのよい食事の取り方や家族との楽しい食事の仕方への理解を深め，健康で安全な生活を送るために，食事の役割を考えて食事を大切にしようとする実践的な態度を育成することをねらいとした。

(4) 実践の記録(12時間扱い)

活動 場所	主な学習活動
学校	<つかむ・見つける> ○毎日の食事に関心をもち，学習の見通しをもつ。 1 食生活に関するアンケートを実施し，自分の食生活を振り返る。

	<p>2 学習課題をもつ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家族のために楽しくおいしい食事をくふうしよう。</p> <p>3 学習計画を立てる</p> <p>①献立の立て方を知り、バランスのよい一食分の献立を考える。</p> <p>②身近な食品を使っておかずをつくり、料理のレパートリーを増やす。</p> <p>③家族のために楽しく、おいしい食事の献立を考え実践する。</p>
家庭	<p>献立の立て方や手立てについて、家庭でアンケートを実施する。</p> <p style="text-align: right;">資料①</p>
学校	<p>〈力をつける・実践する・共有する〉</p> <p>○栄養のバランスのよい一食分の献立の立て方考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">こんだての立て方考えよう。</p> <p>1 献立を考える順番・手がかり・気を付けていることなど家族へのアンケートを参考に話し合い、まとめる。</p>
学校	<p>○栄養のバランスを中心とした一食分のおかずの決め方考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">栄養のバランスを中心としたおかずの決め方考えよう。</p> <p>1 家庭科の学習で取り組んだ料理の栄養を調べる。</p> <p>2 学習した料理のアレンジの方法を考える。</p>
学校	<p>○栄養のバランスのよい一食分の献立を考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一食分のこんだてを考えよう。</p> <p>1 家族へのアンケートを参考にして、ご飯とみそ汁を中心とした一食分の献立を考える。</p> <p>2 考えた献立の栄養バランスを調べ修正する。</p> <p>3 考えた献立をループで発表し合い考えを広げる。</p> <p style="text-align: right;">資料②</p>
学校	<p>○身近な食品でおかずをつくる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">じゃがいもを使っておかずをつくろう。</p> <p>1 じゃがいもの特徴や栄養・調理の方法を調べる。</p> <p>2 じゃがいもの皮むきとゆでる調理を実習する。</p>
家庭	<p>じゃがいもを使った料理や作り方を家族に聞いたり、調べたりする。</p>
学校	<p>○じゃがいもを使ったおかずを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">じゃがいもを使ったおかずを考えよう。</p> <p>1 家庭で調べてきたことをもとにじゃがいもを使った料理を一人一品考える。</p> <p>2 調理の計画を立てる。</p>
学校	<p>○計画に基づきじゃがいもを使ったおかずをつくる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">安全に気を付けてじゃがいも料理をつくろう。</p> <p>1 計画に沿って一人一品のじゃがいも料理をつくる。</p> <p>2 グループで試食し、自己評価・相互評価をし、家庭での実践につなげる。</p> <p style="text-align: right;">資料③④</p>
家庭	<p>○調理実習でつくった料理を家庭でもつくり、学習したことと家庭での方法を比較して実践させることで、よりよい方法を見いだそうとする意欲を高める。</p> <p style="text-align: right;">資料④</p>

学校	<p>○楽しくおいしい食事をくふうする。</p> <p>家族のためにおいしい食事をつくろう。</p> <p>1 食事を楽しくする工夫、マナーについて話し合う。</p> <p>2 これまでの学習を生かし、家族のために一食分の食事を作る計画を立てる 資料⑤</p> <p>・家庭での工夫や家族の好みを参考にしながら献立を考え、調理手順を計画する。</p>
家庭	<p>○学習したことを家庭で実践させることで、学習が身近なものになり、よりよい食生活を送ろうとする意欲を高める。 資料⑥</p>
学校	<p>○実践報告会を開く。</p> <p>友だちの実践を自分の生活に生かしていこう。</p> <p>1 報告会を開き、友だちの報告を聞き合い、考えを広げるとともに、「自分も試してみよう」という実践への意欲を高め、よりよい方法で生活しようとする気持ちを育てる。 資料⑦</p>
家庭	<p>〈実践の日常化〉</p> <p>じ○冬休みにもう一度実践しよう。 資料⑧</p>

<実践3 / 印西市立小倉台小学校>

(1) 題材名 「年末年始の私たちの生活」

(2) 題材の目標

○年末年始の伝統的な生活文化に気付き、家族の一員として主体的に参加することができる。

(3) 題材について

本題材は、新学習指導要領「A 家族・家庭生活(4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。」を受けて設定した。本題材では、家族や親戚と触れ合える年末年始に、家族の一員としていろいろな行事に主体的に関わらせたいと考えた。その際、2年間の学習のまとめとして、今までに家庭科の学習で身につけたスキルを活かせるような課題を設定させたい。

(4) 実践の記録 (4時間扱い)

活動場所	主 な 学 習 活 動
学校	<p><つかむ></p> <p>○ 年末年始の活動にどのように参加してきたか振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族と初詣をする。 ・ 大掃除を手伝う。 ・ お雑煮やおせち料理を食べる。 ・ お年玉をもらう。 <p style="text-align: center;"> 年末年始の家族の行事って、意外とあるんだなあ。 自分から、もっと参加できることがありそうだ。 </p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">家庭科で学習したことを生かして、年末年始の活動に主体的に参加しよう。</p> <p>○ 学習の計画を立て、学習の見通しをもつ。</p>

	<p>学校 ①学習の計画を立てる。</p> <p>家庭 ②興味を持った内容、自分が参加できることを見つける。</p> <p>学校 ③同じ課題の友達とグループを作り、実践の計画を立てる。</p> <p>家庭 ④計画に従って実践し、それを記録する。</p> <p>学校 ⑤記録した内容をグループごとにまとめて、発表する。</p> <p>家庭 ⑥聞いた発表の中から、自分も来年実践したい内容を考える。</p>
<p>学 校</p>	<p>○家庭で課題を見つけるための視点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までに家庭科の学習で学んだことを生かしたい。 ・家族と一緒に活動したい。 ・自分の家の味や文化を伝えてほしい。 ・実践して家族に喜んでもらいたい。 <p>＜見つける＞</p> <p>○年末年始の過ごし方について、家族と話し合い、課題を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんにお雑煮の作り方を教えてもらいたい。 ・大掃除を手伝いたい。 <div data-bbox="1021 548 1396 728" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>今年もおばあちゃんの家に行くから、教えてもらおう。</p> </div>
<p>家 庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もらったお年玉を上手に使いたい。 ・沖縄の年越しそばを作りたい。 ・きんごんの作り方をお母さんに教えてもらいたい。 ・黒豆の上手な作り方を調べて、おいしい黒豆を作りたい。 <div data-bbox="837 918 1165 1086" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>お母さんが作るきんごんは、おいしいから大好き。</p> </div> <div data-bbox="1165 1019 1444 1164" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>去年は失敗したってお母さんが言っていた。</p> </div>
<p>学 校</p>	<p>＜力をつける＞</p> <p>○同じ課題のグループに分かれて実践の計画を立て、ワークシートの形式を決める。</p> <div data-bbox="300 1276 837 1579" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>—日本各地のおぞうに—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お雑煮の作り方を教えてもらう。 ・家族と一緒にお雑煮を作る。 ・材料・作り方・写真・自分の感想・食べた人の感想をまとめる。 (餅の形・調味料・だし・具) </div> <div data-bbox="861 1276 1396 1590" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>両親の実家がいろいろな場所にあるね。年末年始に行かない人は、電話で作り方を聞いて、作ってみよう。 ・・・日本地図にまとめたらおもしろいかもしれないね。</p> </div> <div data-bbox="287 1624 845 1937" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>みんなで分担して、家じゅうがきれいになるようにしよう。みんなの実践をまとめたら、家が全部きれいになるようにしたら、役に立つと思うよ。題名も工夫したいね。</p> </div> <div data-bbox="861 1601 1380 2016" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>—掃除戦隊、ソウジンジャー—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこの場所をそうじするか決める。 (シンク・風呂・サッシ・トイレ・床・玄関と靴箱・リビング) ・そうじの工夫を調べたり教えてもらったりする。 ・そうじをする。 ・そうじの場所・手順・特に工夫したところ・感想をまとめる。 </div>

学校	<p>—初もうでに行こう—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方法・意味・場所などを調べる。 ・自分が初もうでに行く寺や神社について調べる。 ・行った場所・予算・やったこと・自分や家族の感想をまとめる。 	<p>年末年始に特別なことはしないな。初詣は行くから、そのことについて調べよう。</p>
	<p>—おいしいおせち料理の作り方—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ1品ずつおせち料理の作り方を教えてもらう。 ・家族と一緒におせち料理を作る。 ・材料・作り方・写真・自分の感想・食べた人の感想をまとめる。 ・おせち料理を完成させる。 	<p>おせち料理の栄養はどうなっているのかな。材料の栄養についても調べた方が良さそう。</p>
	<p>—年越しそばをつくらう—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料と作り方を調べる。 ・ひとことメモを調べる。 ・年越しそばを作る。 ・どんなトッピングをのせるのか。 ・材料・作り方・写真・自分の感想・食べた人の感想をまとめる。 	<p>家庭によって、上に乗せるものが随分違うね。違いをまとめたら、おもしろいかもしれないね。</p>
	<p>—お年玉の使い方を工夫しよう—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算案を立てる。 (貯金・買いたいもの) ・買い物計画を立てる。 ・実践する。 ・予算案・買い物計画・自分の感想をまとめる。 	<p>学習した表を使って、お金の使い方を実践してみよう。</p>
家庭	<p><実践する></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各グループの課題に沿って実践する。 ○家族に感想を聞く。 ○自分たちで作ったA4のワークシートにまとめる。 	

学校	<p><共有する></p> <p>○実践したことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お雑煮に入れるものや餅のかたち、汁の味を日本地図にしてみよう。 ・それぞれのおせちを重箱の絵の中に詰めていってみよう。 ・大掃除の時に工夫したことや手順をまとめてみんなに知らせよう。 ・年越しそばの各地の特色をまとめよう。 <p>○自分たちの実践を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、個々の実践を発表し、最後にみんなですべての発表をまとめたことを発表する。 ・友達の実践を聞き、実践してみたい事柄については、ワークシートに記録する。
家庭	<p><実践の日常化></p> <p>○次年度の年末年始に実践する。</p>

5. 研究の成果と課題

<成果>

- 「つかむ」で学習のめあてを明確にし、「見つける」で家庭での自分の課題をもつことにより、家庭科の学習がより身近なものとなり、家庭での活動をよりよいものにしたいという目的意識をもって、「力をつける」の学習に取り組むことができるようになった。
- 「実践する」で、家庭科の学習でわかったことやできるようになったことを家庭で実践する活動に取り組んだことにより、活動の場が家庭へとつながり、日常的な活動を行う児童が増えた。
- 保護者に「実践する」での活動の評価をしていただいたので、「おいしいね。」「きれいになったね。」「助かったわ。」などの言葉が、児童の意欲の向上や日常化へとつながった。また、日ごろの家庭での生活の大変さや、「ありがとう。」「おいしい。」の一言の大切さを知ることができた。
- ICTの活用により、発表の準備を簡略化して、調べたことをそのまま知らせることに重きを置く発表方法を取り入れ、発表にかかる授業時数を削減した。そのことにより、児童の実践の時間を十分に確保したり、身につけるべき技能の習得に使う時数を確保した。

<課題>

- 家庭科は実践を中心とした教科である。従って題材によっては、この指導過程を簡略化したり、変形したりする形で、学習内容に沿った形での指導計画を設定する必要がある。
- 家庭での課題の発見や実践には、家庭での実態が大きく関わっており、家庭での活動が困難な児童もいる。そこで「課題解決型の学習」では、グループ活動を中心とした主体的・対話的な活動、実践的な活動を中心として行った。それにより、家庭での活動が困難な児童も、他の児童の実践を追体験として実践に参加することができた。また、実態に応じた関わり方を必要とする必要がある。
- 限られた授業時数の中で行う「課題解決型の学習」をよりスリム化できるような指導計画・指導法を工夫する必要がある。